

○ 地域共生社会の実現に向けて

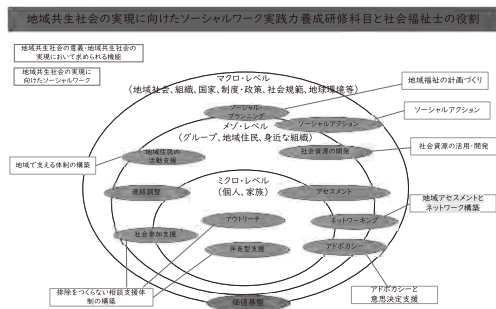
- ・ 個人への支援だけではなく地域づくりに向けた支援を視野に入れ、地域住民や他の専門職と協働・連携し、顕在化していない課題にアプローチすることの意義について理解する。
- ・ 断らない相談支援という視点から、地域アセスメントとネットワーク構築について理解する。

- ① 個人が直面している課題へのアプローチが起点
- ② ミクロレベルからマクロレベルまでを意識した実践
- ③ ソーシャルワーク実践としての切れ目のない支援
- ④ 断らない相談支援の実現に向けて

⇒ 地域における日常生活の課題は、その地域とのつながりの中で解決や緩和を図る。

⇒ 個人が直面しているの課題の解決や緩和は地域の課題の解決や緩和につながる。

- 地域の課題について、一専門職・一専門機関のみで解決することは困難。
- 他の機関・組織、他の専門職、地域住民等とのつながり（ネットワーク）が不可欠。
- つながり（ネットワーク）ができることにより、課題及び支援や解決の方向性を共有。
- 課題の解決や緩和に向けた取り組みが開始。



注:オレンジ色で示した「アセスメント」と「通称調整」はすべての科目で習得を目指す。

地域をアセスメントすること

- ⇒ 地域の実態を把握すること。
 - ⇒ 地域的情報を収集・整理すること。
 - ① この地域の特性
 - ② 社会資源の状況
 - ③ 地域にあるニーズ
- 等を具体的にとらえてみることを確認する。

ネットワーク構築を前提とした 地域アセスメントの視点を確認する ②

アセスメントはソーシャルワーク専門職の重要な役割。

しかし、地域住民自身(当事者)もアセスメントを行いうる。

地域住民(当事者)の参加によるアセスメントの深化。

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

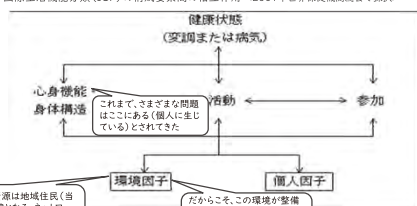
ネットワーク構築の視点と方法を確認する

- 連携・ネットワーク構築そのものが目的ではない。
- 連携・ネットワーク構築のみが単独で行われるわけではない。
- 連携・ネットワーク構築はソーシャルワーク実践として展開されるものである。
- ネットワークの構築は、課題解決への取り組みのスタート。
- ネットワークをどう活用するか。
- 課題解決・緩和に向けて動くネットワークが必要。

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

ネットワーク構築の基盤としての環境整備

生活機能と環境への着目
国際生活機能分類 (ICF) の構成要素間の相互作用 <2001年世界保健機関総会で採択>



地域における社会資源は地域住民(当事者)にとっての環境となる。ネットワーク構築は、環境整備としての意味をもっている。

だからこそ、この環境が整備されていないと、それが日常生活、社会生活上の「社会的障壁」となる。

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

ネットワーク構築の視点と方法～実践例の提示

① 個別課題の確認

⇒ 例) 地域における認知症高齢者に対する理解不足から、地域住民とのトラブルが増加
不安が高まる。ゴミ出しのルールが守れない。

閉じこもりがちな生活のため健康面が心配な高齢者がいる。

② ネットワークは手段であることを確認し、何を目的とするかを検討する

⇒ 例) 「認知症や1人暮らし高齢者への見守り声かけができる街づくり」

③ ねらい・期待する効果を明確化する

⇒ 例) 地域での声かけ、見守り体制を整える。すでにあるネットワークに気づく。

地域住民の協力によって日常の見守り力が高まる。

日本社会福祉士会『ネットワークを活用したソーシャルワーク実践～事例から学ぶ「地域」実践力養成テキスト』。
(中央法規出版、2013年)

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

ネットワーク構築を進めるための視点を確認する

- 利用者・地域住民の課題解決や緩和のための支援のつながり。
- ネットワーク構築は地域の環境整備の一環としてとらえられる。
- 社会福祉士はネットワークの当事者として、機能するネットワークのあり方を考える。

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

演習の目的と実施するためのポイント ①

演習(グループディスカッション)では…

参加者が実践内容と課題を共有する。

具体的には…

- ・ 地域アセスメントはどのようになされているか
- ・ 地域で共有されている地域の強みや課題は何か
- ・ どのようなネットワークが機能しているか
- ・ 社会福祉士としてネットワーク構築にどのように関わっているか…
等を念頭にディスカッションする。

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

演習の目的と実施するためのポイント ②

- ・ 進行役は置いた方がよい。
→役割としては、個々の発言時間、全体の進行管理等
- ・ ディスカッションの冒頭では、個々の考えをまとめる時間をとれるとよい（1～2分程度）。
- ・ そのために、「ネットワーク構築を前提とした地域アセスメントの視点①～④」（スライド15～18）を手元で確認できるとよい。
- ・ 一つの結論を出すことが目的ではない。
- ・ そのため、相互の実践に活かせる「アイデア出し」のイメージでもよい。
- ・ しかし、参加者は本科目の目標を意識してディスカッションを進める。
- ・ ディスカッション後はその内容をシェアできるとよい。

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

本科目の目標の再確認（再掲）

○ 地域共生社会の実現に向けて

- ・ 個人への支援だけではなく地域づくりに向けた支援を視野に入れ、地域住民や他の専門職と協働・連携し、顕在化していない課題にアプローチすることの意義について理解する。
- ・ 断らない相談支援という視点から、地域アセスメントとネットワーク構築について理解する。

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

ネットワーク構築を前提とした 地域アセスメントの視点 ①

① 地域の特性は？

- 人口動態（人口・高齢化率・世帯構成等）
- 住居形態（戸建て・集合住宅・新興住宅地等）
- 地域特性（商業地・農地等）
- 地理的状况（道路・交通機関・河川・里山等）
- 文化や歴史（伝統行事・イベント等）
- 地域活動の状況（自治会・町会等）
- 住民の関係性 等々

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

ネットワーク構築を前提とした 地域アセスメントの視点 ②

② 地域の社会資源の状況は？

- 人材（知識・技術・経験・情報・時間等）
- 施設・機関
- さまざまなサービス・制度
- 組織・団体
- 財源
- 拠点・空間
- 情報
- ネットワーク（関係性・つながり）
- 地域の規範・雰囲気・空気感 等々

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

ネットワーク構築を前提とした 地域アセスメントの視点 ③

③ 地域にあるニーズとは？

- ～必ずしも当事者が声をあげない・あげられない潜在的ニーズへのアプローチ
- 地域住民が気づいていること・心配なこと
→最近姿が見えない、子どもの泣き声、ゴミの問題…
- 種々の事業者が気づいていること・心配なこと
→訪ねても出て来られない、料金の滞納…
- 専門職や専門職の所属機関が気づいていること
→福祉・保健・医療・教育機関等で把握していること

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

ネットワーク構築を前提とした 地域アセスメントの視点 ④

④ 地域アセスメントとして情報収集やニーズ把握として実施している方法は？

- 行政データの活用
- 社会資源リスト・マップの活用（作成）
- 関係者からの聞き取り
- アンケート調査
- 地域におけるさまざまな活動への参加
- 住民を含めた関係者が参加できる機会の設定等
- 情報が寄せられる関係づくり、体制づくり 等々

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

学びのふりかえりとまとめ ①

- ・ ディスカッションの内容をシェアする。
- ⇒シェアのポイント
- ☆ 気づき
 - ☆ 具体的なアイデア
 - ☆ 明日からの実践に活かせるような内容
- ・ 目標に照らした理解の確認
 - ・ 最後に再度ディスカッション（感想の共有）をしてもよい。

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

学びのふりかえりとまとめ ② ～社会福祉士として地域をとらえる視点～

- ① 地域住民（当事者）をシステムの中にある人としてとらえ、システムとして変化を促す。
- ② 意図をもって地域をアセスメントする（見立てる）。
- ③ 既存の人間関係やネットワークを活用する。
- ④ ネットワークを「個人」に向けて活用する。
- ⑤ 個別支援と地域支援を一体的に展開する。
- ⑥ ネットワーク構築に向けた気づきを共有する
- ⑦ ネットワーク構築に向けたプロセスを重視する。
- ⑧ 地域住民（当事者）を主体としたネットワークを構築する。
- ⑨ ネットワークの変化と成長の可能性を共有する。

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

本科目の目標の再々確認（再々掲）

○ 地域共生社会の実現に向けて

- ・ 個人への支援だけではなく地域づくりに向けた支援を視野に入れ、地域住民や他の専門職と協働・連携し、顕在化していない課題にアプローチすることの意義について理解する。
- ・ 断らない相談支援という視点から、地域アセスメントとネットワーク構築について理解する。

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

文 献（e-ラーニング資料）

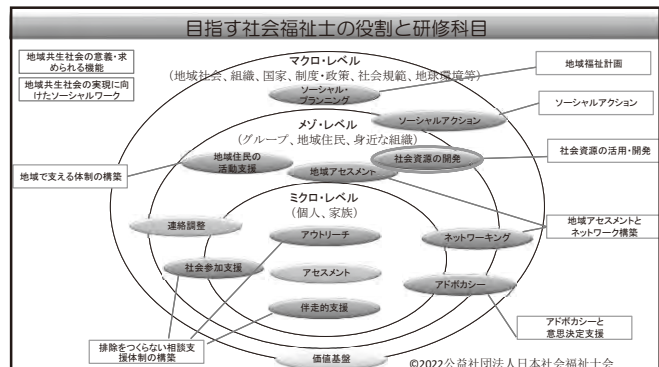
- ・ 日本社会福祉士会『改訂 地域包括支援センターのソーシャルワーク実践』、中央法規出版、2012年。
- ・ 日本社会福祉士会『ネットワークを活用したソーシャルワーク実践～事例から学ぶ「地域」実践力養成テキスト』、中央法規出版、2013年。
- ・ 日本社会福祉士会『地域共生社会に向けたソーシャルワーク～社会福祉士による実践事例から～』、中央法規出版、2018年。
- ・ 社会福祉士養成講座編集委員会『地域福祉の理論と方法第3版』、中央法規出版、2015年。
- ・ 山本繁樹「行政・社会福祉協議会・地域包括支援センターの協働によるシステム構築」日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの新たな展開～理論と先進事例』、中央法規出版、2019年。

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

公益社団法人 日本社会福祉士会
地域共生社会の実現に向けたソーシャルワーク実践力養成研修
社会資源の活用・開発



©2022公益社団法人日本社会福祉士会



本テーマの目標

○新カリキュラムでの学びを自らの実践に活かすことができるよう、知識構築・力量形成を促す

○地域共生社会の実現に向けて

- 社会資源の概念についての正確な理解を促す
- 社会資源を活用・開発することの意義についての理解を促す
- 社会資源を活用・開発する方法についての理解を促す

○参加支援（社会とのつながりや参加の支援）ならびに「地域やコミュニティにおけるケア・支え合う関係性の育成支援」に向けての力量を形成する

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

コロナ禍でも“地域のつながり”を堅持する
ー資源開発の挑戦ー

（地縁組織・ボランティア）

- ○○町会連合会：（上半期）見守り・例会を自粛。電話で安否確認・励まし。（下半期）秋の敬老祝い品から訪問・手渡し開始。フェイスシールド、マスク、除染の徹底
- ○○老人クラブ連合会：行事はAB2グループに分けて参加者を半減。時短で実施。電話と郵便で激励（「激励文＋マニュアル」郵送。健康体操・音楽療法の講師に協力依頼）
- ○○町会＋包括：高齢者はフレイル→骨折→認知機能低下やうつが、現役世代はテレワークの増加とともに虚待が見られるようになった。暑中見舞いを往復ハガキで（びっくりと書かれた返信）
- 傾聴ボランティア○○…「電話で話してスッキリ」の開始。「絵はがき使い切ろう」運動。

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

（社会福祉施設・事業所）

- ○○会：施設が運営するカフェ（子育て層向け等）を休止→弁当販売・宅配（学校給食中止支援・在宅高齢者向け等）に切り替える。管理栄養士監修。HP・FB・LINEで周知。
- △△会：施設が運営するカフェを休止→利用者の手作りパンの宅配。老人センター休館→利用者の運動不足対策に、体操のプリント＋塗り絵を郵送。塗り絵は返信してもらい施設に展示。ICT（Zoom等）の利用支援。家族が感染した障害者を施設で受け入れ。
- ○○地域公益活動ネットワーク：施設で運営していた子ども食堂を休止→個別に食事を宅配（または取りに来てもらう）。飲食店・民生委員・社会福祉法人・社協などが連携。法人間のオンライン情報交換会を開催（地域課題の共有）
- △△市社会福祉法人連絡会：学校給食中止の支援。市内の施設で昼食を多めに作り、弁当配付。社協は広報・受付、弁当配達、利用料補助。

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

（行政・社協）

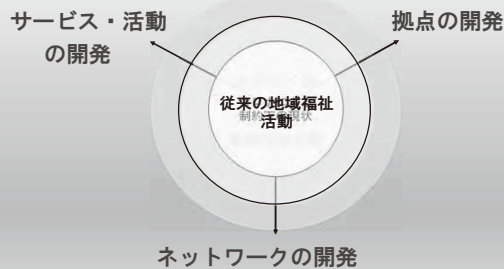
- ○○区：専門職が陽性自宅療養者に「生活支援セット」宅配（調理不要の食料品、日用品等）。※玄関先に置いて連絡する。家族等の支援が受けられない、食料品等の調達が困難な人が対象
- △△社協：緊急小口資金・総合支援資金／サロン参加者に電話（状況確認）／手作りマスクポスティング／頭の体操ドリル作成等

（ICT活用による地域活動の維持・促進）

- NPO法人○○：コロナ禍での地域活動を紹介するサイトを立上げ・運用（全国）
- XX県社協：同上（県内）
- ▼▼区社協：学生がタブレットでサロンに参加し、健康体操・脳トレなどのプログラムを提供（元々は現地で手伝いをしていた）

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

コロナで地域福祉の活動はどう変わるか？



©2022公益社団法人日本社会福祉士会

1 社会資源活用・開発がなぜ必要なのか

- ・ソーシャルワーカーの技術としての社会資源活用・開発が必要とされる今日的な背景
- ・既存資源の活用と新たな資源の創出
- ・資源活用・開発における柔軟な視点・方法
- ・人びとの価値や態度・行動の変容を促す資源開発

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

資源活用・開発が求められる背景

- コミュニティソーシャルワークなどの場面で〈資源開発〉が重視されるのは、既存の制度・サービスや資源をあてはめるだけでは解決できない課題を抱えた人の問題、社会的孤立を解消していくことの重要性が増しているから。
- 新しい資源の創出 < 既存資源活用
- 有形無形の価値を創出する（人の意識、つながりを喚起するのも資源開発）

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

無限にある資源開発の方法

- 空き店舗・空き家・余剰教室等を地域の居場所・活動場所に
- 福祉施設や企業のスペースを用いて活動場所に（例：子ども食堂等）
- 前職・趣味などを活かしたボランティアで地域の活力に
- 困りごとを抱えた当事者・関係者の集まりを活動主体・発信主体に
- その他、有形無形の資源開発が多彩に行われている：

デイサービスの送迎車を使った〇〇〇

孤立高齢者の〇〇〇を活かしてボランティアに

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

資源活用・開発のさまざまな方法

- 拠点開発（ハード）ー活動・プログラム開発（ソフト）
- 福祉内連携…社会福祉法人の公益活動などを契機に、福祉分野内の垣根を超えた連携
- 他（多）分野との連携…医療・教育・住まい等、関連分野との協働による包括的な支援、企業のCSR・大学等との協働
- ネットワークの開発・・・プラットフォーム（拠点・プログラム・会議体等）の開発により、官－民／フォーマル－インフォーマル／福祉分野ー福祉以外の分野の垣根を超えた支援体制、福祉を合言葉にしたまちづくり

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

2 社会資源の類型と活用・開発の方法

- ・社会資源の基本的なとらえ方・類型
- ・さまざまな社会資源活用・開発の方法

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

社会資源の類型

■ 地域資源と社会資源

地域資源…自然、人、歴史、文化、その他特徴的なもの。一般資源
社会資源…（地域福祉においては）社会福祉の援助過程で用いられる資源。社会福祉資源

■ 地域自立支援に必要な7つの資源

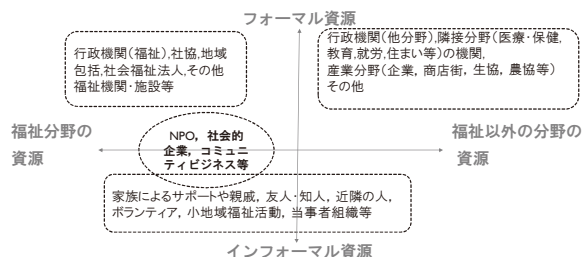
- ①人的資源（本人・家族・近隣・ボランティア・専門職など）
- ②サービス（プログラム）
- ③情報
- ④空間（居場所・拠点）
- ⑤ネットワーク
- ⑥財源
- ⑦制度・システム



・展開するエリアは？
（近隣・市町村・県・国など）
・運営主体・設置主体は？
・機能は？
（フォーマル・ノンフォーマル・インフォーマル）

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

主体別に見た資源活用・開発のタイプ



©2022公益社団法人日本社会福祉士会

資源開発のさまざまな方法

- 商店街の空き店舗を活用して地域の居場所に ➡ 演習事例
- 小・中学校の余裕教室や廃校舎を使った地域の居場所に
- 企業等の敷地を借りて地域の居場所に
- 複数の社会福祉法人の連携による生活困窮者支援（制度の狭間問題の発見・解決）
- 福祉施設の設備（交流室、浴室等）を使った子ども食堂、身体障害者の入浴支援、送迎車を使った買い物・移動支援等
- 福祉行政とその他の主管の連携による見守り・支援
- 中間的就労を盛り込んだ地場産業の活性化

…その他、多彩な事例が全国で見られる

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

事例から学ぶこと

- 既存資源、遊休施設、住民個々の力（前職、趣味、特技等）をうまく活用すること（セクションの壁を越えて連携が生まれる）の実効性
- 住民のニーズに着目し、オン・デマンドでつながる→資源開発することの大切さ。“バリア（＝カベ）”があるから“バリアフリー（＝乗り越えるチカラ）”が生まれる
- 異なる立場の資源をつなげ、調整する役割＝コーディネーター、協議の場の重要性。〈協議〉は〈気づき〉の喚起・共有を促し、〈気づき〉は〈行動〉を、〈行動〉は〈協働〉を生む
- 地域には、支援ニーズ（支援してほしい、困っている…）と活動ニーズ（活動したい…）がある

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

3 資源開発の事例

・既存資源を使った地域の居場所づくりの事例から、地域アセスメント、資源活用・開発、ネットワーキングなどの視点と方法を学ぶ

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

〈事例〉商店街の空き店舗を地域の居場所に（都市部A区・B団地のCサロン）

プロフィール

- 高齢化率57%超の団地。商店街はシャッター通り化
- 3法人（障害者就労支援＋地域包括支援センター受託法人＋区社協）が共同で居場所を運営。社協で同地区を担当するコミュニティソーシャルワーカー（CSW）や包括の社会福祉士が調整役となった
- 住民、学生、商店との協働によるプログラムを企画・実施し、商店街の活性化、住民のコミュニティ再生、障害者の就労機会創出（就労継続支援B型、区の高齢者食事会、配食サービス、清掃等）に貢献

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

ストーリー

- 3法人と商店街の協議で、空き店舗（元飲食店）を常設型サロンとしてオープン
- 隣接するコミュニティレストラン（法人が運営する就労継続支援事業）の利用者が、サロンの手伝いをできるようにした。付近の大学の学生も運営補助のボランティアに来るようにした
- 多くの住民に知ってもらいイベントを模索し、夏だったこともあり、商店街の酒屋の協力で、サロン前のスペースでビアガーデンを実施。普段来ない若年層なども足を運んでくれた
- その他イベント等を通じ、「一度目はお客さんでも、二度目からはあなたのサロンにしてください」と呼びかけ
- 大学との協力で、団地住民に全戸アンケートを実施（地域アセスメント）。どうすればより多くの人の求めに応じられるかを探った（特に男性高齢者のニーズ把握に努めた）

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

（つづき）

- アンケートの結果、高齢男性からは「朝、体操と朝食の機会がほしい」「畑をしたい」との要望が多かった。CSWは各法人と協議し、対応のための調整をはじめた
- 一つ目のニーズに対し、学生やボランティアの運営による「朝活」（朝、サロン前に集まって体操をし、そのあとサロン内で朝食）を開始
- 二つ目のニーズに対しては、区内で農地に使える土地が見つけれず苦労したが、付き合いのある病院から「敷地内の荒れ地を整備して畑にしてはどうか」と提案があり、クリアできた

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

まとめ

- 地域生活課題が多様化・増大化する一方、地域にはさまざまな資源（人材、組織、場所、資金、思い、時間etc.）がある
- フォーマル～インフォーマル、福祉分野～福祉以外の分野、ハード～ソフト等、幅広い地域資源を「社会資源化」すること、あるいは「社会資源と連携すること」を模索することで、「既存資源の活用方法の見直し」、そして「新たな資源の開発」につながる
- 新たなことを創出しようとする時、制度・財源から「トップダウン式」にアイデアを下ろすのではなく、地域の実情や住民の思いを「ボトムアップ式」で汲み上げていくことが大切。計画はそのための「気づき」と「協働」を広げていくことが求められる
- 地域共生社会をめざす上で、利害、制度、論理、立場…を異にする諸資源をつなぎ、協働的实践を生むには、媒介役（通訳）としてのソーシャルワーカーの幅広い知識・人脈、柔軟な発想力・スキルが重要

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

参考文献

日本地域福祉研究所監、中島修・菱沼幹男共編（2015）『コミュニティソーシャルワークの理論と方法』中央法規出版。
上野谷加代子・原田正樹編（2016）『地域福祉の学びをデザインする』有斐閣。

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

〈演習〉

社会資源活用・開発に求められる視点とスキル—Cサロンの事例から—

Step 1 個人ワーク（10分間）

Cサロン（スライド18～）の開設・運営において見られた資源活用・開発のポイントを抽出しましょう

- ①「地域資源」（福祉以外の資源）を見いだす視点と、「社会資源」として使えるようにするために必要な技術は何でしたか？
- ②住民ニーズを把握するための地域アセスメントの方法は何でしたか？ほかの方法として、どんなことが考えられますか？
- ③把握したニーズを実行に移すために、「無い袖を振る」ような開発性が見られました。どんなことが行われましたか？

Step 2 グループワーク（25分間）

各自の考えをグループ内で共有し、資源活用・開発の視点や方法を学び合しましょう

Step 3 発表と共有（10分間）

計45分間

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

Step 1 個人ワーク①

「地域資源」（福祉以外の資源）を見いだす視点と、「社会資源」として使えるようにするために必要な技術は何でしたか？

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

Step 1 個人ワーク②

住民ニーズを把握するための地域アセスメントの方法は何でしたか？ほかの方法として、どんなことが考えられますか？

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

Step 1 個人ワーク③

把握したニーズを実行に移すために、「無い袖を振る」ような開発性が見られました。どんなことが行われましたか？

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

Step 2 グループワーク

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

Step 3 発表と共有

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

公益社団法人 日本社会福祉士会

地域共生社会の実現に向けたソーシャルワーク実践力養成研修

「研修の振り返りと明日からの実践に向けて」

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

グループワーク

テーマ①

「今回の研修を踏まえて明日からの実践にどう活かしていきますか？」

※研修全体をふまえて、「今後地域共生社会の実現に資するソーシャルワークの実現に向けて何をしていくのか？」について行動レベルに落とし込んで話し合いをお願いいたします。今回は、受講生としての立場でお考えください。

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

全体共有

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

グループワーク

テーマ②

「今後この研修を全国展開していくにあたっての講師としての課題」

※研修全体をふまえて、ご自身が講師をされるにあたっての課題についてご議論ください。今回は、講師としての立場でお考えください。

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

全体共有 & まとめ

©2022公益社団法人日本社会福祉士会

